

## EU 2024/25年度のリンゴ生産量は減少の予想

[EUROFRUIT 2024年8月8日](#)

### 来シーズンの生産量は主に東欧での減収により約1,020万トンに減少する見込み

ますます不安定な気候は、東欧を中心に引き続きヨーロッパのリンゴの減収をもたらすことが分かった。EUの今シーズンのリンゴ生産量は、この7年間で最少、10年間で2番目に少ない1,020万トン強と見込まれる。

この予測は、8月8日木曜日にハンガリーの首都ブダペストで開催された毎年恒例の果樹産業イベント「プログノスフルーツ」(Prognosfruit)で、世界リンゴ・ナシ協会が明らかにしたもので、EUの主要なリンゴ生産国20カ国が報告した数字を集計したものである。

環境や経済の圧力に直面しているこのセクターの存続可能性に関する長期的な懸念にもかかわらず、この発表は、市場の需要と消費者の購買力が回復を続ける中、今シーズンは良い価格になる可能性があるとしている生産者や出荷業者の間で慎重な楽観論を引き起こした。

AMI社(市場分析会社)のアナリストであるヘルヴィヒ・シュヴァルタウ氏は、「例えば賃金が回復し、インフレ率が下がっているドイツでは、市場の状況はわずかな改善が見られる。小売価格は上昇しているが、売上への影響はほとんどない。このため、リンゴ業界は小売価格の維持を求めて戦うべきだと考えている」と言う。

シュヴァルタウ氏は、EUの生鮮市場向けのリンゴの総出荷量は、東ヨーロッパから170万トン、西ヨーロッパから460万トンの合計約630万トンと、大幅な減少が予想されると述べた。ただし、出荷の後半では、ドイツ等の北部諸国の生産量が22%減少し、イタリア等の南部諸国で1%増加すると予測している。同氏は、「これは西ヨーロッパにとって非常に興味深いものになると思う。100kg当たりの平均価格は、約75~90ユーロと高くなる可能性がある」と述べた。

同氏はさらに、「現在の在庫を見る限り、ドイツ、オランダ、ベルギー、オーストリア、ポーランドでは来シーズンの期初在庫の水準が良好なようだが、イタリア、フランス、スペインでは課題がある」と付け加えた。

執筆者: マイク・ノウルズ

## (関連記事)EU ナシ生産量は緩やかに回復の予想

[EUROFRUIT 2024年8月8日](#)

### イタリアとフランスでは天候の影響を受けた昨シーズンの出荷量から回復するが、ベルギー、オランダ、スペインの生産者は出荷量の大幅な減少を予想

世界リンゴ・ナシ協会は、イタリアの生産量の顕著な増加が、2024/25年度のEUのナシ生産量全体の控えめな回復に寄与するとしている。しかし、ベルギー、オランダ、スペインで予想生産量が大幅に減少したため、EUの新シーズンの収穫量はわずか179万トンと見込まれ、これは記録的に少なかった昨年の生産量を4.9%上回るものの、従来の200万トンを超える水準を大きく下回っている。

ヨーロッパ最大のナシ生産国であるイタリアは、来シーズン40万5千トンを提供すると予想されており、降霜、洪水、降雹の被害により2022年よりも約60%少なかった昨年の18万4千トンから劇的に回復する。フランスも2023年の悪天候による不作から回復し、11万9千トンを出荷する。この数字は3年平均を15.7%上回るが、同国の潜在的な生産力をはるかに下回っている。ヨーロッパの他の地域では、ポルトガル(10.1%増の12万4千トン)とギリシャ(38.1%増の8万4千トン)で増加が予想される。しかし、ベルギー(26.6%減の28万トン)とオランダ(8.7%減の32万7千トン)では生産量の減少が予測される。スペインのナシの出荷量は、14.8%減の24万4千トンと予測される。

AMI社のアナリスト、ウルスラ・ショッケモーレ氏は、「クラブ品種がますます増えている」とコメントし、ドイツ市場におけるブランドナシの種類が2年間で2倍以上に増加したと明かした。同氏は、「スーパーマーケットでは高品質のナシに対する需要があり、これは絶好のチャンスである。アボカドやフラットピーチ(蟠桃)で見られたように、消費者はより良いものにかなり高い対価を支払うことを厭わない」と述べた。

執筆者: マイク・ノウルズ